

平成28年

壱岐市議会定例会12月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）国境離島新法に係る取組について・・・・・・・・	1
（2）国勢調査の確定値について・・・・・・・・	2
（3）長崎県への要望書の提出について・・・・・・・・	3
（4）介護福祉士養成校について・・・・・・・・	3
（5）国民健康保険調整交付金等の返還について・・・・・・・・	4
（6）NHKラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」の開催について・・・・・・・・	4
2. 交流人口の拡大	
（1）駐日外交団壱岐市視察ツアーについて・・・・・・・・	5
（2）観光振興について・・・・・・・・	6
（3）壱岐なみらい創りプロジェクトについて・・・・・・・・	7
（4）ふれあい交流事業について・・・・・・・・	8
3. 産業の振興	
（1）農業の振興について・・・・・・・・	9
（2）水産業の振興について・・・・・・・・	11
（3）商工業の振興と雇用対策について・・・・・・・・	12
4. 市民	
（1）大塚製薬株式会社との「安全安心のまちづくりに関する連携協定」について・・・・・・・・	12
5. 教育	
（1）次代を担う壱岐っ子の健全育成について・・・・・・・・	13
6. 防災、消防・救急	
（1）防災について・・・・・・・・	14
（2）消防・救急について・・・・・・・・	16
7. 議案説明	
（1）補正予算について・・・・・・・・	16
（2）その他の議案について・・・・・・・・	17
8. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17

行政報告

平成28年壱岐市議会定例会12月会議

1. はじめに

本日ここに、平成28年壱岐市議会定例会12月会議にあたり、前会議から本日までの市政の重要事項及び今回、補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、11月3日付で発令された第27回危険業務従事者叙勲において、本市から、元壱岐市消防長の松本^{まつもと}力^{ちから}様が瑞宝双光章を受章されております。

また、11月23日付で発令された本年度の県民表彰では、産業（農林）功勞として、多年にわたり西九州たばこ耕作組合副組合長を務められた岡口^{おかぐち}勝洋^{かつひろ}様が、教育文化功勞として、長年、学校医としてご尽力いただいている光武^{みつたけ}新人^{あらひと}様が、それぞれ受賞されました。

この度、叙勲、県民表彰の榮に浴された皆様に対し、今日まで築かれたご功績に、深甚なる敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。

（1）国境離島新法に係る取組について

国境離島新法に係る現在の取組については、10月24日から25日にかけて、国境離島新法を担当する国の機関である内閣官房総合海洋政策本部から2名ご来島いただき、本市への現地調査が行われ、各分野の地元関係者87名の皆様方との意見交換会が、5部

会に分けて実施されました。また、最後には振興局並びに市との意見交換会も実施されたところでございます。それぞれの分野での現状や課題を説明し、地元関係者の皆様方からは、施策提案を含め様々な思いを直接、国に伝えていただきました。

国では、8月30日に29年度予算の概算要求が示され、現在は、基本方針を策定するための作業が行われている段階であり、本市といたしましては、国からの基礎調査や直接のヒアリングへの対応、壱岐市国境離島新法民間会議からの施策提案にかかる事業化検討などを行なっているところであります。

今後も、概算要求で示された運賃低廉化、滞在型観光の促進、物資の費用負担の軽減、創業・事業拡大等支援について、国、県、地元との事業調整を密にしていまいりたいと考えており、議員各位、市民皆様のさらなるご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

(2) 国勢調査の確定値について

昨年実施された平成27年国勢調査の確定値が、10月26日に公表されました。壱岐市の平成27年10月1日現在の人口は27,103人で、平成22年の前回調査29,377人と比較すると、2,274人の減で減少率がマイナス7.7%となっています。

人口減少対策は喫緊の課題と捉えており、平成27年に策定した「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った施策を展開し、地域の様々な特性や資源を活かして、少子高齢化と人口減少に歯止めをかける取組を進めてまいります。

(3) 長崎県への要望書の提出について

去る11月18日、長崎県への壱岐市及び壱岐市議会連名の単独要望を行いました。

中村知事をはじめ、幹部職員に対応いただき、本市からは、山本^{やまもと}啓介^{けいすけ} 県議会議員にも同席いただき、9項目の要望書を鵜瀬議長とともに知事へ提出しました。本年度の重点要望項目として、壱岐空港滑走路の延長と勝本港に関連する施設整備の2項目を私の方からご説明申し上げ、ご理解を得たものと承知しております。今後も、県との連携を密にし、本市の振興発展に全力で取り組んでまいります。

(4) 介護福祉士養成校について

学校法人 岩永学園が進めている介護福祉士養成校の開校については、校舎として活用する旧鯨伏中学校の耐震改修工事が完了し、昨日、12月1日に開校式が行われました。

専門学校としての開校は、来年4月1日からありますが、12月1日から来年2月28日までの間、求職者支援訓練として「介護職員初任者研修」が始まっております。

学校側としては、来年4月からの入学生に関して高校新卒者のみならず、市内の社会福祉施設等で勤務されている社会人の方で、国家資格取得を目指す意欲のある方にも随時、生徒募集を行われています。

高齢化社会を迎え、社会問題となっている介護分野における人材確保のため、今後も支援を行ってまいります。

(5) 国民健康保険調整交付金等の返還について

国民健康保険調整交付金は、市町村間の医療費、所得水準等の不均衡等の調整と、災害等の画一的な基準によって措置できない特別の事情を考慮して交付されるものでございます。

今回、一部新聞報道にありましたが、会計検査院より10月7日に提出された2015年決算検査報告のとおり、昨年11月に実施された会計検査院厚生労働検査第3課による実地検査により、過大交付の指摘による返還と自主返還の指導を受け、2,519万4,010円を国庫へ返還することとなっております。

また、国保被保険者の保険税負担の軽減と市町村国保の財政基盤の安定を図る目的で交付される国民健康保険基盤安定負担金においても、10月の平成28年度申請時に平成27年度分が過大交付となっていることが確認され、国庫と県費あわせて、2,252万9,484円を返還することとなっております。

これら返還金については、今後、国、県より示される返還スケジュールに沿った対応が求められるため、所要額の予算措置が必要となります。

いずれの事案も、制度の理解不足等による誤った事務処理が要因となっていることから、今後このような事案が再発しないように、事務処理体制の見直しと、さらなる職員教育の徹底を図ってまいります。

(6) NHKラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」の開催について

NHK長崎放送局と壱岐市の主催により、壱岐の島ホール落成

20周年を記念したラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」の公開収録を11月25日に実施しました。ゲスト歌手の橋幸夫さんと門倉有希さんをそれぞれのリーダーとして、地元の男性と女性のチーム対抗でふるさと自慢を繰り広げたり、また、カラオケで歌を競い合うコーナーなど、本市のPRに努めていただきました。また、ゲスト歌手2人の歌謡ショーも行われ、観覧者の皆様を大いに魅了していただきました。

なお、実際のラジオ放送日は、12月24日と翌年の1月7日の2回に分けて放送される予定であり、詳細はケーブルテレビ等を通じてお知らせする予定としております。

2. 交流人口の拡大

(1) 駐日外交団壱岐市視察ツアーについて

外務省と壱岐市の共催により「駐日外交団壱岐市視察ツアー」を11月8日から9日にかけて実施し、15カ国から駐日大使5名を含む外交官21名の皆様が来島されました。壱岐高校生徒との交流や一支国博物館、上村真珠等の島内視察及び歓迎レセプションを通して、美しい自然やグルメ、歴史、産業、おもてなしの精神など、壱岐市の魅力を肌で感じていただいたところでもあります。事後のアンケート結果では、「構成、協力、おもてなし、サポート、素晴らしい人々と視察場所等、全てが完璧だった。」「文化交流、パートナーシップと交易に対する良い契機となった。」等、多くの嬉しい言葉をいただきました。

外務省主催の本事業は、在京の駐日大使館の皆様には日本の地方の魅力を理解していただくことを目的とした事業であり、平成22年より実施され、本年度まで全国22カ所を訪問されております。壱岐市は離島では全国で初、九州でも北九州市に続き2カ所目の訪問先でありました。

このツアーを機に、今後も引き続き壱岐市の魅力を国内外へ発信し、観光客誘致、地場産品の販路拡大を図るとともに、国際交流を推進してまいります。

(2) 観光振興について

本市における観光客数を推計するうえで参考となる九州郵船とオリエンタルエアブリッジの8月から10月までの乗降客数累計は、214,640人、対前年比92.2パーセントでありました。

8月は比較的天候に恵まれ、海水浴客も大幅に増えており多くのお客様を迎えることが出来ましたが、9月に入り一転して天候に恵まれず、台風の影響もあり前年に比べ大幅に落ち込んでおり、10月に入り回復の兆しが見られた状況となっております。

観光振興に取り組む上で、日本遺産認定第1号都市という財産を最大限活用することが重要であると考えております。本年10月1日より、NPO法人一支國研究会を事業主体として、本市の日本遺産を構成する内海湾で古代航路体験ができるシーカヤック事業がスタートしました。今後、内海湾が有する多様な資源と組み合わせ、魅力ある観光地づくりに努めてまいります。

情報発信・誘客活動でございますが、9月にゆめタウン広島、

10月に日本橋長崎館での観光物産展、11月にはマリンメッセ福岡での「九州外食ビジネスウィーク2016」において、本市のPR等を行っております。今後も、あらゆる機会を利用し、島の魅力の情報発信に努めてまいります。

また、来年度には東京・浅草にある商業施設「まるごとにつぼん」で壱岐のPRを実施したいと考えております。「まるごとにつぼん」は、全国各地のグルメを扱う店舗等が入る施設で、3階に全国の20程度の自治体がアンテナショップ形式でブース出展する「おすすめふるさと」というスペースがあります。その「おすすめふるさと」に、壱岐のブースを4月から1年間出展できるよう応募し、職員を派遣しプレゼンを実施したところ、10月末に出展の内諾をいただきました。

「まるごとにつぼん」は、平成27年12月の開館以来、1日平均約1万人の来館実績を有し、テレビ等のメディアにも数多く取り上げられている施設であります。加えて浅草は、東京スカイツリー、東京タワーに次ぐ都内有数の人気観光スポットであり、年間約2,800万人の観光客が訪れる場所であります。本市の知名度向上及び壱岐産品の認知度向上に大いに寄与する事業と期待しており、来年の出展に向け諸準備を進めてまいります。

（3）壱岐なみらい創りプロジェクトについて

市民皆様が中心となり、対話を通じて壱岐市の未来を自分の事として考える「壱岐なみらい創りプロジェクト」の活動発表会を11月20日に壱岐高校コモンホールで開催しました。当日は、これま

で議論や実践を重ねてきた8つのテーマについて、それぞれの代表者が活動報告を行いました。

昨年の11月から10回の対話会を実施し、1,066名の方々にご参加いただいておりますが、このうち高校生を中心に学生が566名参加するなど、次代を担う子どもや若者の意見を直接聴くことができたことは、大変意義あることと考えております。

今後、今回の事業で確立した産官民「三方よし」の関係をさらに深化させ、他にはない本市独自の地方創生に邁進してまいります所存でございます。

(4) ふれあい交流事業について

人口減少対策の一環として取り組みました婚活事業、「第4回イキイキお結び大作戦」を11月5日と6日に開催しました。壱岐在住の男性参加者には、10月と11月に全国で活躍する婚活マスターたかはし そうすけ高橋 聡典 氏をお招きし、コミュニケーション能力を高める手法や心構えなどのセミナーを昨年に続いて実施しました。

女性参加者は、福岡を中心に遠くは東京・千葉・埼玉から参加いただき、男性17名・女性15名で開催したところ、8組のカップルが誕生しました。

今回の婚活イベントでは、男性に対する2度の事前セミナー、イベント終了直後のセミナー、2週間後のフォローアップセミナーを実施するなど、交際が円滑に進むフォローに重点を置き、イベント当日は、男女が真剣に相手と向き合える時間を多く設けるなど、工夫を凝らして実施したところであります。

今後、継続的なフォローアップに努め、1人でも多くの成婚者、移住者が増えることを期待するものであります。

3. 産業の振興

(1) 農業の振興について

皆様ご承知のとおり、11月10日の衆議院本会議で、環太平洋経済連携協定いわゆるTPPの承認案と関連法案が可決されました。本案は参議院に送付され、現在審議中ではありますが、今国会で承認、成立する見通しとなっております。アメリカ大統領選挙の結果も絡み不透明な状況ではございますが、TPPの発効により、多くの農畜産物に影響が出てくるものと考えており、市といたしましては、TPPに係る情勢を注視し、国、県の施策に対し関係機関と連携した取組を積極的に展開してまいります。

本年度の水稻作況指数は、長崎県全体で104%、壱岐においては108%と平年を上回る発表がなされました。

早期米については、日照が比較的多く収量は平年より増加しましたが、品質については高温の影響により、コシヒカリは2等100%であった一方、高温耐性のあるつや姫は1等98.8%、2等1.2%の好成績であります。

普通期米については、収穫期に雨が多かったため、刈り遅れによる品質低下が見受けられ、11月30日現在、にこまるが1等77.7%、2等16.1%、3等6.2%であり、ヒノヒカリは2等100%となっております。

葉たばこについては、成熟期の天候不良による立ち枯れ病の発生等が影響し、収量が反当 2 1 1 k g でしたが、1 0 月 1 1 日から 1 7 日にかけて行われた収納・販売では、1 k g 当たり代金 2, 0 8 0 円の高い品質で 1 0 a 当たり代金 4 3 8, 9 3 9 円の成績でありました。

畜産については、去る 1 0 月 2 6 日、壱岐家畜市場で開催された壱岐市和牛共進会において、市内各地域から肉牛の部も含め 8 5 頭の出品をいただきました。出品者の皆様には、長期間にわたる御労苦に心からの感謝とお労いを申し上げる次第でございます。

来年 9 月 7 日から 1 1 日にかけて、第 1 1 回全国和牛能力共進会宮城大会が開催されます。昨年開催された長崎県和牛共進会において、出品者のご努力も報われず、壱岐牛は全ての出品区で上位入賞が叶いませんでした。このことを踏まえ、全共壱岐地区推進協議会では、来年の全国和牛能力共進会出品を目指した出品意欲の向上を目的として、全共出品牛 1 頭当たり 1 0 0 万円を補助するように計画されております。市といたしましても、全共へ出品されることにより、壱岐牛の名声が高まるとともに、基幹作目である畜産業のさらなる振興に繋がるものと捉え、本計画に対し支援を行うようにしております。全共本番に向け、畜産農家、関係機関の皆様には、さらなるご精進を賜りたいと存じます。

肉用牛経営における子牛の販売は、全国的な繁殖農家の減少に伴い高値で推移しておりますが、肥育農家においては厳しい経営を強いられております。昨日の 1 2 月市初日の結果は、平均 9 0 3, 5

75円で前回比107.6%の成績であり、市場開設以来の高値を記録しております。

しかしながら、高齢化・後継者不足等による繁殖牛の飼養頭数が減少しておりますので、今後も産地維持のため、繁殖基盤の強化を図らなければと考えております。

農地・農業用施設等災害については、被災申請箇所45地区の現地査定が実施され、その結果、平均査定率が94.6%、査定額が59,957千円となりました。

今後、早急に事務手続きを進め、復旧工事に着手してまいります。

(2) 水産業の振興について

本年4月から10月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と比較しますと、漁獲量は、1,896トンで11.1%の減、漁獲高は、16億8千9百万円で14.1%の減となっております。主な要因は、9月から10月にかけての台風の影響や海水温の上昇による漁場環境の悪化などが考えられます。

漁家経営は大変厳しい状況が続いておりますが、水産業の振興を図るため、今後も、漁業者の皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図り、各種施策に積極的に取り組んでまいります。

また、意欲ある担い手の育成支援事業である認定漁業者制度については、現在180名を認定しておりますが、制度の開始から5年が経過し、更新時期を迎えております。今年度約半数の更新を予定しており、効率的・計画的な漁業経営を図るため、今後も積極的な制度の活用を期待しております。

(3) 商工業の振興と雇用対策について

人口減少抑制対策として地域での雇用創出を図るため、新しい産業の創出を促進するとともに、地元の頑張る中小企業を支援する新たな産業支援施策として、起業を志す人や経営上の課題を抱える中小企業のあらゆる問題の解決と、売り上げアップに向けたビジネスの挑戦を応援する「壱岐市産業支援センター」を開設し、センターを核とした地域産業活性化と地域全体の活性化に取り組んでまいります。現在、12月末を締め切りとして、センターの中心的役割を担うセンター長を募集しているところでございます。今後の流れとして1月中旬に書類審査、2月下旬に面接審査を行い、その後、センター長採用者を決定し、4月からセンター長の研修期間を設け、7月下旬から8月上旬にセンターを開設する予定としております。

4. 市民

(1) 大塚製薬株式会社との「安全安心のまちづくりに関する連携協定」について

本協定については、大塚製薬株式会社福岡支店から、本市の重要施策の一つである市民の健康維持・増進、それを下支えするスポーツ振興や防災について提案をいただき、地域の一層の活性化と安全安心のまちづくり並びに市民の健康寿命の延伸と生活の質の向上に寄与できるものと判断し、去る10月31日に連携協定を締結したところでございます。

今後、この協定を機に、災害時の支援、健康づくりや食育、スポ

ーツ振興など本市の各種施策の推進に、専門知識や人的・物的資源、社会貢献で培ってきた豊富な経験を有する大塚製薬株式会社に貢献いただけるものと期待しております。

5. 教育

(1) 次代を担う壱岐っ子の健全育成について

小中学生の全国大会等での活躍については、9月会議でもご報告しましたが、去る10月28日から30日に横浜市日産スタジアムで開催された「第47回ジュニアオリンピック陸上競技大会」に長崎県代表として出場した郷ノ浦中学校の^{まつもと}松本^{たいち}汰壱君が、2年男子走り幅跳びの部において、6m27cmの記録で全出場選手48名中、9位という好成績を残しました。

また、勝本中学校1年の^{かしい}香椎^{あやか}彩香さんが、先月行われた女子サッカーユース育成の最高峰に位置する「ナショナル・トレセン」のメンバーに選出され、なでしこジャパンU-16日本代表入りの夢が叶う位置に昇り詰めてきました。

このような壱岐の子ども達の活躍は、本人の努力はもとより、先生方や指導者、また保護者のご理解、ご尽力によるものと受け止めております。全国大会・九州大会・県大会等での貴重な経験が精神力を鍛え、仲間を思いやる心や地域への感謝の気持ちをさらに育んでくれるものと期待しております。

次代を担う壱岐っ子の健全育成を願い、島外での競技等の活躍を支援するため、今後不足が見込まれる「小中学生スポーツ大会補助

金」を今回、追加計上いたしております。

6. 防災、消防・救急

(1) 防災について

去る10月4日に九州地方に接近した台風18号は、本市においても最大瞬間風速24.7メートルを記録するなど、強い勢力を保ったまま本市に接近しました。このため、自主避難施設の開設や避難準備情報の発表などによる市民皆様への注意喚起等を行ったところでございます。被害状況については、台風のコースが壱岐市の北側を通過する予測であったため、大きな被害が懸念されましたが、倒木3件、ビニールハウスの破損1件、普通期水稻の潮風害による葉先枯れ等が174ヘクタール発生しておりますが、幸い、大きな被害は発生しておりません。

今後も、台風災害をはじめとした自然災害に対し、関係機関と十分連携を図り防災対策に万全を期してまいります。市民皆様におかれましては、防災に関する知識の普及啓発を目的に、災害への備えや災害が発生した場合の対処方法をまとめた「わが家の防災マニュアル」を各戸に配布しておりますので、再度確認をお願いいたします。

なお、去る11月14日に、イオンストア九州株式会社と「災害時における支援に関する協定」を締結しました。災害が発生した際に、本市の要請に基づき全国のイオングループが保有している食料品・衣料品・日用品などの生活必需品のほか、災害応急対策のため

に必要な物資の提供を受けることができ、安全で安心なまちづくりの実現に大きく寄与していただけるものと考えております。

次に、原子力防災について申し上げます。

去る9月26日に、本市で4回目となる原子力安全連絡会が開催され、県、市、九州電力、各関係機関の代表20名が出席し、玄海原子力発電所に関する防災対策などの情報の共有化と意見交換を行ったところであります。また、10月10日には、今回で5回目となる長崎県原子力防災訓練が、本市を含めた県内4市と、長崎県、佐賀県、福岡県の3県合同で開催されました。玄海原子力発電所での放射能漏れ事故を想定し、情報収集伝達訓練、災害対策本部設置・運営訓練、緊急時モニタリング訓練、原子力災害医療訓練、広報訓練、住民の避難訓練、誘導訓練、島外への広域避難訓練など、総勢300名の参加をいただき、実践的な訓練を実施したところであります。

11月22日には、内閣府主催の玄海地域原子力防災協議会へ出席し、壱岐市の防災について発言しました。

また、国の補正予算において、原子力防災に係る屋内退避施設整備費として郷ノ浦町長島地区で3億7,500万円、原島地区で3億2,600万円の補助金の内示が長崎県になされており、今回所要の予算を計上しております。万が一、原子力災害が発生した際の三島地区における避難想定としては、玄海原発から30キロ圏外となる壱岐島北部への避難を基本としておりますが、天候や避難方法によっては、迅速に避難できない可能性があり、避難可能となる

までの間、一時屋内退避するための施設が必要となるため、今回整備するものであります。

(2) 消防・救急について

本年1月から11月末現在の火災・救急発生状況は、火災19件、救急1,498件となっており、昨年同期と比較しますと、火災が3件の減、救急が4件の減となっております。

去る、11月9日には、長崎県壱岐病院において、消防訓練を実施し、病院火災の自衛消防隊初動体制の確立と消防隊及び消防団の防ぎょ活動技術の向上、関係機関との連携強化を図ることができました。今後もこうした訓練を重ね、さらなる火災予防の啓発と消防力の強化に努めてまいります。

また、公益財団法人日本消防協会から壱岐市消防団へ防災活動車の交付が決定し、12月中に配備の予定となっております。防災活動及び消防広報に大きく寄与するものと期待しております。

師走に入り、火災の発生しやすい時期となります。市民皆様には、火の取り扱いなど十分ご注意くださいようお願いいたします。

7. 議案説明

次に、議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出した補正予算の概要は、

一般会計補正総額	8億4,247万8千円
各特別会計の補正総額	4,543万円

となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正額の合計は、

8億8,790万8千円

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、

247億4,575万3千円

で、特別会計については、

110億7,098万8千円

となっております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、長崎県市町村総合事務組合規約の変更1件、条例の制定・改正に係る案件8件、公の施設の指定管理者の指定6件、辺地に係る総合整備計画の策定1件、予算案件6件でございます。

何とぞ十分にご審議をいただき、適正なるご判断を賜りますようお願い申し上げます。

8. おわりに

以上をもちまして、前会議以降の市政の重要事項また政策等について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でありますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月2日

壱岐市長 白川博一